

令和3年度2学期始業式 校長式辞（令和3年9月1日 リモート）

今日から2学期が始まります。昨年は、新型コロナ対応のために、異例の8月17日が始業式でした。今年度は日程的には元に戻りました。しかし、元に戻っていないことがあります。それは、コロナ禍の中での学校生活であるということです。

特に朝日祭の開催が心配です。この場で、「朝日祭は、今年度は中止です。」と宣言してもおかしくない状況です。緊急事態宣言下です。体育祭・文化祭等学校行事は「延期」・「中止」・「規模縮小して実施」の3択から判断することになります。16～18歳の1週間の平均感染者数は、4月は3人、緊急事態宣言下の5月は46人、8月は89人です。感染者発生による対応は、学級閉鎖等厳しいものになっています。

したがって、今後の状況次第では朝日祭全体の中止もあり得ます。ではなぜ、リスクあるのに最初から朝日祭を中止しないのでしょうか。その理由は、朝日祭には学校の教育活動としてのとてつもない大きな価値があると考えているからです。部活動の公式戦を中止にしていない理由と同じです。

他の人と関わりあいながら、正解のない課題解決に向けて取り組む経験、AIにない人間の強みを意図的に育成することに繋がる活動であるからです。今年の卒業生の答辞の多くが朝日祭のことであったことを見てもこの活動の価値を感じ取ることができます。そこで、3点のお願いがあります。

1点目は、徹底した感染予防対策の実行です。予防対策には、「想像力」が必要です。相手がデルタ株に変異していること、一人ひとりの行動が朝日祭の成否や医療従事者の仕事に対する尊厳に繋がっていること、結果のコントロールは出来ないがプロセスのコントロールは出来ること等を想像し、出来ることをやりましょう。

2点目は、感染者が発生した場合の差別や偏見につながる行為は、絶対に禁止であることです。また、苦しいことがあれば相談してほしいということです。

新型コロナウイルス感染症には、誰でもかかる可能性があります。感染した本人

を責めることはできません。対策のプロセスはしっかりやって、結果が出たら適切に対応すること、生きて、未来に向かっていくことが大切です。

SNSを含めて偏見や差別につながる行為は断じて許されないものであるだけでなく、感染症拡大にもつながってしまいます。また、皆さんは、長期化する新型コロナウイルス感染症への不安に加え、日常生活での制限等により、想像以上に不安定な状態にあります。教員、保護者、周りの人、24時間電話相談等相談をしてください。

3点目は、一人ひとり全員がリーダーシップを持つことです。1階の全校掲示板に、生徒会執行部から「チーム朝日 ともにコロナを乗り越えよう！」というメッセージが掲げられています。危機への対応は、一部のリーダーの頑張りでは無理です。一人ひとり全員がリーダーシップを発揮することで危機は乗り越えることができます。リーダーシップとは、一部の人に任せればよい、物事は一部のリーダーが決めて、他の人を引っ張っていけばよいという考え方（リーダー像）は既に転換しています。近年は、一人ひとり全員が同じ目的を達成するために協働する中で、場面に応じて気が付いた人が、他者にも働き掛けることを「リーダーシップ」と捉え、全員がリーダーシップを持つ組織（チーム）が強い組織であると考えられています。このことは、朝日の教育方針である「自主自律」に繋がるのではないのでしょうか。

三つお願いしました。これらは、コロナ対策と朝日祭だけでなく、我々の日常生活や生き方にも通ずるものがあると考えます。

最後に、本を紹介します。「We have a dream 201か国202人の夢×SDGS」という、この夏出版されたものです。この202の夢に順位を付けることはできません。皆さん、一人ひとりの夢は何でしょうか。

一人ひとりの2学期での成長を期待して式辞といたします。

(岡山県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)